

## 桐生市総合計画策定に関する市民提言の募集結果

市民提言は、専用の市民提言用紙により、今後どのようなことに力を入れたまちづくりをしていくのがよいか、まちづくりの方向性を3つまで選んでいただき、そのための具体的な提言を自由記述によりいただきました。

### 1. 募集結果

7人の方から合計9件の提言をいただきました。

### 2. まちづくりの方向性の集計結果

今後どのようなことに力を入れたまちづくりをしていくのがよいか (まちづくりの方向性)	選択数
1. 織物の歴史などを生かした、文化と芸術のまちづくり	1
2. 働く場所も多く、商店も整った、にぎわいのあるまちづくり	4
3. 知名度が高く、全国から多くの人を訪れる、交流と観光のまちづくり	3
4. 出産、子育てをする環境が充実した、子育てしやすいまちづくり	3
5. 子どもから高齢者まで、だれもがいつまでも安心して暮らせる、やすらぎと健康のまちづくり	3
6. 災害や犯罪のない、安全なまちづくり	0
7. 道路や公園など、公共的な施設などが整備されたまちづくり	1
8. 自然環境やまちなみが生かされた、景観の美しいまちづくり	3
9. さまざまな人々や団体が交流する、市民活動が盛んなまちづくり	1
10. その他	2

### 3. 提言内容

	まちづくりの方向性	そのための提言
1	2、4、5	<p>まず働く場所（工場等）が少なすぎる。</p> <p>積極的な工場誘致、商店の活性、その良い例が朝の通勤時間帯で、太田、大泉へ行く車の多いこと、太田には働く場所が一杯あるので、逆に太田方面から桐生へ通勤する車の少ないこと。</p> <p>まず国では地方創生が進められているのに、東京への一極集中です。出生率が低い東京への人口集中は日本を（地方を）滅ぼします。まず私達が住んでいる桐生を活性化しましょう。そして桐生の市街を活性化しましょう。現在のままでは桐生はダメになるでしょう。良い例が栃木県今市です。町が死んでいたのが町の中に産業都市を作って3年位になる様ですが現在では町が活性化されています。（まあ、色々難点もありますが）</p> <p>私もある町で仲間を作って市街化、活性化の為に計画を着々と進めています。時間はかかりますが例えば土地の買収（地上）等をしていて町が活性化する様にとやっています。桐生ではとにかく人口の増加、町の活性化が一番大事ではないでしょうか。</p> <p>以上のようなことは、どなたでもわかっているでしょうが、デスク理論で、実行には到っていないでしょう。とにかく行政の力なくしては、この様な事業は出来ません。行政と民間と協力し合って知恵を出し合えば必ず桐生は活性化します。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
2	2、4、7	<p>雇用環境の創出、企業進出のための優遇措置の検討、商店街の集約、都市機能の集約、車前提の社会から公共交通や街歩きなどへの行動変容を行うこと、伝建地区の資材を生かした観光面での改善、観光ルート明確化、公共施設の拡散から集約へ、市内の都市施設の集約などを行うことで大小拠点の作成と今後の維持活用へ、都市計画課の拡充、画期的で挑戦的な街づくりへ</p> <p>●そのほか、将来のまちづくりについての意見、提案</p> <p>連鎖型都市開発を利用した都市機能再生</p> <p>近隣市町村の交通軸や拠点階層性の整合を図る</p>

	まちづくり の方向性	そのための提言
		<p>みどり市との合併による行政業務の整合性をとること            小さな拠点の形成、地域公共交通網形成計画、立地適正化計画の早期策定            公共交通の利便性の充実（ひたちなか海浜鉄道のような公共交通の充実により経営の回復）            東京などで開催されている都市計画学会のイベントや全国建設研修センターへの参加            学会や講義、外部講師などへの都市計画の勉強機会の創出            私の所属研究室の筑波大学 谷口守教授やその他大学教授へのヒアリング            駅前拠点の充実→公共施設との距離があること、その駅からの交通が悪いこと</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
3	5、8、9	<p>私は、65歳定年を期に桐生市に移住してきました。現役時代は、東京都内に通勤するサラリーマンでした。定年後は、趣味の登山を楽しむため自然環境に恵まれた都市への移住が夢でした。たまたま妻の故郷が桐生市で何度か訪れた際、自然に恵まれた街で適度にインフラが整備され住みやすい街だと感じていました。決め手は自分の生まれ故郷「京都市」と歴史的な関係があり、古い街並みが保存された落ち着いた街並みが気に入りました。</p> <p>私の感じる桐生市の強みは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自然環境に恵まれていること（山が近い、景色が素敵）</li> <li>2) 歴史的な街並みが保存されている</li> <li>3) 都内までのアクセス時間が2時間以内</li> <li>4) 社会的なインフラが整備されていること（医療機関、公会堂、スーパー他</li> <li>5) 地方都市としては、様々なイベントが実施されていること。（例えば、桐生映画祭や祇園祭、クラシックカーフェスなど）</li> </ol> <p>反対に桐生市に住んで感じたことは</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 中心に街並みはシャッターが下りていて閑散としている</li> <li>2) 街の中心部に更地や廃墟化した建物が多く存在する</li> <li>3) 廃校になった学校の建物が目立つ</li> </ol>

まちづくり の方向性	そのための提言
	<p>上記の現象は、人口減少が続く日本のどの地方都市でも生じている現象です。</p> <p>さて、現在の日本の置かれた状況を見てみると</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 平均寿命が延び世界一の長寿社会である</li> <li>2) 65歳以上の世代が全人口の30%になろうとしている</li> <li>3) 医療の進歩や生活環境の向上から健康年齢（活動的に生活できる年齢）が大きく伸びている</li> </ol> <p>「桐生市を人々が集まり、活気のある街を作る」という目標を掲げて計画を策定する場合日本の置かれた現状を受け入れてPLANを策定する必要があります。私の考えた提案は、既に桐生市も取り組まれている対策もありますが、「シニア世代の夢実現をサポートする事を通じて市の活性化につなげる」という内容です。長い現役生活を終え、定年後は夫婦で新しい人生をスタートさせたいという夢を誰もが抱いています。この世代は、年金以外に退職金や現在の住居などの不動産等持ち、それなりに裕福です。また、最近の医療に進歩等により定年後も最低20年以上、健康的に生活できる期間が残されています。</p> <p>この年代をこれまでの老人というカテゴリーで捉えるのではなく、健康的でアクティブに活動する「現役シニア世代」と考えるべきです。私は、「現役シニア世代」の夢を実現のために、桐生市が受け皿となり、主に民間業者の事業活動を通じて、サポートするというPLANです。</p> <p>活動計画は次の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 桐生市への移住を促進するためのPLAN <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週年間を通じて、短期の移住体験が出来る体制を作る</li> </ul> <p>現在の桐生市内宿泊施設と提携して安く泊まれる特別PLANを作成したり、廃校となった学校をリニューアルして宿泊施設として活用するなど、移住を検討されている方々を対象にプレ移住体験が気軽に低価格で出来る仕組みを作る。校庭には土を入れての農園やスポーツ施設を整備、宿泊者が農業体験等出来る環境を作ります。更に、市内の観光や登山等宿泊者の要望に応じた体験メニューも準備します。成功へのカギはこの入口対策にあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 短期移住者に対する情報提供等を通じて移住実への手助けをする</li> </ul> </li> </ol>

まちづくり の方向性	そのための提言
	<p>宿泊体験者には、次のステップへ進むためのサポートを行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 今後の移住者の意見を聞き、一軒家やマンション購入を希望するのか、賃貸住宅で移住するのか等、希望に応じた情報提供と業者紹介もを行います。</li> <li>2) 移住後のPLANを聞き個々の要望に応える体制を整備します。</li> <li>3) 桐生市の補助金制度、介護保険制度等の説明を行います。</li> <li>4) 社会的インフラの説明（医療や介護、運動施設、趣味を生かす活動など）</li> </ol> <p>※移住実現に向けてサポートを継続して確実に移住を確実にします。</p> <p>※空き家の活用等積極的に行う。移住後商売（喫茶店や趣味の店など）を行いたいと考える方には、物件情報の提供や斡旋も行う。</p> <p>※農業をしたい方のために貸農園情報や農地購入の斡旋も行う。</p> <p>※移住者が介護付き分譲マンション等への入居を希望する場合も情報提供や業者紹介等を行う。現在、首都圏では、介護付きマンション施設への入居の競争率も高く、更に費用も高額なことから地方都市へ入居者が流出しているようです。桐生市は首都圏からのアクセスの良さに加え、自然環境に恵まれていることから、介護付きマンション業者への桐生市誘致を図ることで、市中心街の空き地の再利用が可能になり、移住者の増加にも寄与出来ると考えます。</p> <p>今後、日本社会全体が高齢化社会に突入します。</p> <p>どの自治体も高齢者の受け入れには介護費用等の増加から積極的ではありません。</p> <p>しかし、少子高齢化という大きな社会的トレンドに逆らって「若者を受け入れたい」などの対策の実現は現実的ではありません。</p> <p>トレンドを逆手に、定年後、移住して自分の人生を楽しもうとする現役シニア世代を受け入れることで桐生市の活性化につながると考えます。</p> <p>PLAN実現により次のような効果が生まれます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現役シニア世代の家族や孫との交流が生まれ、桐生市を訪れる</li> </ol>

	まちづくり の方向性	そのための提言
		<p>人が増加します。現に私の子供や孫も何度も桐生市を訪れて街の施設を利用しています。</p> <p>2) 関連する民間事業者に新たな需要が創出されます。</p> <p>3) 桐生市中心部の人口が増加や移住者が中心部で商売を始める等で街が活性化する。</p> <p>最後に、私は桐生市に住んで2年目ですが、街のことが好きだし、現役シニアの生活を思うぞんぶん楽しんでます。実は、友人にも私と同じような考えの方は多数いましたが、思いだけで具体的に踏み出す機会がなく、そこには移住に向けてのハードルを低くできるサポートや仕組みがあれば夢が実現できていたのではと思います。私は、現役シニア世代の夢の実現を通じて、桐生市の活性化と繁栄につながれると考えています。</p> <p style="text-align: right;"><b>以上</b></p>
4	1、2、3	<p>桐生市に寝殿づくり（土御門邸（120m×240m）＝藤原道長居住）を作る</p> <p>1. 寝殿づくりは今現在日本には存在しないので桐生で作れば世界にひとつである。</p> <p>2. 作り方は当時の方法では耐久性に多くの問題があるので土台、屋根、塀等は現在の技術を生かしたものにします。江戸時代に書かれた家屋雑考という本に寝殿づくりのことが詳しく書いてあると聞く。調べれば土御門邸の構造もわかると思う。</p> <p>3. この寝殿づくりを桐生の着物文化の発信の拠点とする。寝殿の中には着物を着た人しか入れなければ、いろいろな雇用が生まれ、曜日、時間を決めて結婚式も行えばさらに盛り上がる。</p> <p style="text-align: right;"><b>以上</b></p>
5	3、8	<p>吾妻山の山頂から赤城山を望めるようにしてもらいたい。</p> <p>1. 多くの人が現在も登っている。しかしほとんどが体力作りの一巻であり、山頂からの景色を魅力と考える人は少ない。</p> <p>2. 吾妻山山頂は赤城山を望む絶好の高さ、位置にあり、四季の景色を楽しめる。いろいろな人に聞いても赤城山を望む絶好の地はな</p>



	まちづくりの方向性	そのための提言
		<p>い。昔は赤城山が吾妻山から望むことができた。</p> <p>3. 山頂から雄大な山が望める戸神山（武尊山）、黒斑山（浅間山）、十二ヶ岳（群馬の山岳）、水沢山（群馬の山岳）は四季を通じて登られている。</p> <p>戸神山で会った30代位の若い人のことば「吾妻山から赤城山が昔は見たのですか。私は桐生で育ち、仕事で伊勢崎に住んでいるのですが、知らなかったです。吾妻山から見たいものですね。」と言った。</p> <p style="text-align: right;"><b>以上</b></p>
6	4、5、8	<p>現在、当市は“おりひめバス”を運行して、市民の足として役立っているが、利用者側から観ると、充分とは云えない。バス運行ひとつにとっても、いろいろあるだろうが、衆知をあわせて実用に役立つ運行を実現して下さい。この事こそ5に叶う実施の1つではないでしょうか。</p> <p style="text-align: right;"><b>以上</b></p>
7	2、3	<p>群馬大学（工学部）がある事と自然災害が低い事をアピールポイントにし、宇宙、ロボット、AI開発関連の企業にしぼった、特にベンチャー企業の誘致</p> <p>店舗を貸したい人と借りたい人の窓口となる店舗課を置く。そして、さまざまなイベントを企画運営し、街に人々をよび込む</p> <p>野間清治の出身地、坂口安吾が住んでいた事、西に西陣、東に桐生と言われていた事をもっと積極的に全国に発信し、本と着物があう街をテーマにくわえ、本町1～3丁目の街づくりをしてゆく</p> <p>●そのほか、将来のまちづくりについての意見、提案</p> <p>国際交流のまちづくり</p> <p>外国人向けに、長期滞在型八木節習得体験ツアーを運営する。おどり部門とおはやし部門にわけ、滞在中はうどん打ち体験、銭湯体験など、さまざまな体験をしてもらい人々と交流をして行く</p> <p style="text-align: right;"><b>以上</b></p>

	まちづくり の方向性	そのための提言
8	10	桐生市の総合交通問題に関する提言※ <sup>1</sup>  <b>以上</b>
9	10	桐生市の総合交通問題に関する提言※ <sup>2</sup>  <b>以上</b>

※1・2 一人の提言者から、市民提言用紙ではなく独自に作成した資料により、2件提出があったものです。

内容につきましては、本提言者は桐生市総合計画審議会の公募委員にも応募をいただき、市民提言と同様の内容の応募論文を提出いただいておりますので、応募論文を参照ください。( **資料7** 応募論文 No.1 )